

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

2015年度（前期）指定公募②

「地域包括ケアを目的とした在宅医療推進のための多職種研修会への助成」

完了報告書

テーマ : シームレス・セクトレス・
エンドレスなケアを目指して
～よりよいコミュニケーションツールを学ぶ～

申請者名 :

むつ・下北地域看護と介護の連携作り委員会

委員長 徳田 暁子

むつ・下北地域看護と介護の連携作り委員会（別紙：団体名の歴史紹介）では、看護と介護に関わる職種が「顔と顔の見える関係作り」の構築を目的に、橋渡し窓口担当者ネットワーク連絡会（橋渡し研修会）を2005年から毎年1回開催している。今年は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受け、年2回目として「第12回 むつ下北地域橋渡し研修会」を開催することができた。

日 時：2016年2月20日（土）13:00～16:00

場 所：プラザホテルむつ

テーマ：「シームレス・セクトレス・エンドレスなケアを目指して」

～よりよいコミュニケーションツールを学ぶ～

講 師：ガイドンスカウンセラー 認定心理士 竹内 由加子氏

（詳細は、実施要綱・プログラム・レジメ・アンケート結果を参照）

研修参加人数は74名であり、医療機関の看護師・社会福祉士・精神保健福祉士、居宅介護支援事業所からはケアマネジャー、特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護福祉士や相談員、また、地域包括支援センターや保健所、市の保健師などであった。

32施設からの参加者で、在宅療養に関連する下北・むつ市の拠点となる施設からの参加となった。今回のテーマは、これまで開催してきた研修会でのアンケート結果などを基に、ケアの基礎となる「コミュニケーションツール」について講師にお願いした。

まず、講師の竹内先生から、「自分の誕生日を交えて、参加者同士多くの方と自己紹介をする」という課題があり、時間の許す限り挨拶を交わした。日頃の退院支援等での関わりのお礼や「初めまして」の挨拶などが飛び交い、なごやかな雰囲気での研修会がスタートした。その後、“自分の人間関係の特徴に気づく”では自己分析シートなどで自分をまず理解し、次に出席者同士で相手のことを知るために、悩みを聴く力、などを学んだ。患者・利用者のみならず、それぞれの病院・施設等のスタッフ間でのコミュニケーションにおいても、職種の違い、職場の違いなどで、ささいなことですれ違いや誤解が生じ、それに伴って看護・介護スタッフ達の心も傷ついたり、疲弊したりすることも少なくない。竹内先生からは、相談者とのコミュニケーションがうまくいかない時の手立てや対処法などについて、具体的な事例を交えて説明してもらった。途中、コーヒブレイクや先生からキャンディの差し入れがあるなど、アンケート結果にもあるように、3時間の研修時間が短く感じるくらい「もっと体験談や事例などもう少し長く聞きたかった」と好評だった。日常、患者さん・利用者さんとの関わりの中でのコミュニケーションは不可欠であり、介護・看護する専門職としてコミュニケーション能力が高くなるように努力が必要である。今後も多職種、他施設関係者との「よりよいコミュニケーション」をとり、「看護と介護の連携作り」を継続していきたいと思う。この研修会は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受け実施出来たことに感謝申し上げます。

【その他、これまでの報告とお礼】

当院の保健師が、訪問看護認定看護師の資格取得にあたり、公益財団法人 日本訪問看護財団での研修期間に、「在宅医療助成 勇美記念財団」についての広報を知り、認定資格取得後、貴財団から数々の助成を受け利用させていただいていました。

まず、2012年からは、【～在宅医療をはじめの方へ～ 訪問看護 活用ガイド】を毎年数冊いただき、連携機関へ提供する一方、院内看護師へは【在宅医療の知識と実際 ～病院で働く皆さんへ～】を【在宅医療を知っていますか 最期まで在宅で暮らしたい方へ】のポスターを院内掲示、他施設へも配布となっています。

2014年には「在宅医療に関する研修会」として、看護職員だけでなく院内職員を対象として50名余りの職員がDVD視聴をして、在宅医療に関する知識を高め、その時のアンケート結果を回答したことで、DVDも寄贈していただいたので、これからも「在宅医療推進」のために使用する予定となっています。

在宅医療をすすめるにあたり訪問看護師や退院調整看護師が、その都度患者・家族へ説明しているものの、ポスター・冊子・DVDなどは、職員も含め地域住民の方々への広報のツールとして、活用しやすく効果があります。今後も、機会ある毎に活用させていただき、在宅医療の推進を図っていききたいと思います。ありがとうございました。

(謝辞)：この研修会は、公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受け実施することが出来た。今後も「むつ・下北看護と介護の連携作り委員会」を継続させると共に、【公益財団法人 勇美記念財団】の社会的貢献に報いるべく、下北圏域においての在宅医療のよりよい推進を図っていききたい。

第12回 むつ・下北地域橋渡し研修会開催要領

「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」

【目的】

9月の研修会では、本人の意思を引き出し、望む生活へすこしでも近づくことができるようにと、「意思決定支援」に関する知識や方法を習得しました。

折しも、在宅医療を推進している勇美記念財団の研修会開催助成を受けることが出来たので、日常、多忙煩雑な業務の中で、身体的ケアをしながらでも、相手の心をとらえ、個々の思いを引き出し、くみ取ることが出来るような、コミュニケーションツールを身につけることができれば、さらなる、保健・医療・福祉に関わる私達のスキルアップに繋がるのではないかと考え、研修会を開催することとしました。

そこで、ガイダンスカウンセラー、認定心理士の竹内由加子氏をお迎えし、専門的知識の習得や実際の関わり方について学ぶ事を目的とします。

【対象】 下北圏域内保健・医療・福祉の橋渡し窓口担当者及び関係者

【日時】 平成28年2月20日（土） 午後1時から午後4時まで
（受付開始時間 午後0時30分から）

【場所】 プラザホテル・むつ
むつ市下北町2-46 ☎ 0175-23-7111

【内容】

テーマ 「シームレス・セクトレス・エンドレスなケアを目指して」
～よりよいコミュニケーションツールを学ぶ～

講師 ガイダンスカウンセラー、認定心理士 竹内 由加子 氏

保健・医療・福祉関係者として、日常の業務である患者・家族・利用者とのかかわりにおいて、「相手を知るため、心を観察、観測できるような、コミュニケーションの取り方、患者の言葉にならない言葉を引き出すため」のツールを学び、今後の看護と介護の連携の場において役立つように勉強します。

【参加費】 なし 「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成による」

【参加申込締切】 平成28年2月12日（金）までに、医療連携室へFAX等で提出ください。

平成28年1月4日

職員各位

むつ・下北地域看護と介護の連携作り委員会
委員長 徳田 暁子

「第12回むつ・下北地域橋渡し研修会」開催のお知らせ

皆様には、いつも保健・医療・福祉包括ケアシステムの推進にご尽力いただきありがとうございます。
この度、「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の研修会開催助成」を受け、ガイダンスカウンセラー臨床心理士の竹内由加子氏を講師に、「シームレス・セクトレス・エンドレスなケアを目指して」～よりよいコミュニケーションツールを学ぶ～をテーマとして、研修会を下記のとおり開催することとしました。参加希望者は下記申込書に記入の上、2月12日（金）までに医療連携室へ提出下さい。

記

- 日時 平成28年2月20日（土） 午後1時から午後4時まで
（受付開始時間 午後0時30分から）
- 場所 プラザホテル・むつ
- 内容 テーマ「よりよいコミュニケーションツールを学ぶ」

講師 ガイダンスカウンセラー 臨床心理士 竹内 由加子 氏

- 参加費 無料

----- きりとり線 -----

第12回 むつ・下北地域橋渡し研修会参加申込書

所属	職種	氏名

※ 平成28年2月12日（金）までに医療連携室へ御提出下さい。
【担当】 地域連携部 甲田 （内線3352）

第12回 むつ下北地域橋渡し研修会

シームレス・セクトレス・

エンドレスなケアを目指して

～よりよいコミュニケーションツールを学ぶ～

講師：ガイダンスカウンセラー・認定心理士

竹内由加子 氏



保健・医療・福祉関係者として、日常の業務である患者（利用者）・家族との関わりにおいて、「相手を知るため、心を観察・観測できるような、コミュニケーションの取り方や、患者の言葉にならない言葉を引き出すため」のツールを学び、今後の看護と介護の連携において役立つように、ともに学びを深めましょう。



対象	下北圏域内保健・医療・福祉の橋渡し窓口担当者及び関係者
日時	平成28年2月20日（土）13：00～16：00 （受付開始時間 12：30～）
場所	プラザホテル・むつ むつ市下北町2-46 TEL： 0175-23-7111
参加費	無料 （公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成による）
申し込み	締め切り：平成28年2月12日（金） むつ総合病院 医療連携室 宛 TEL： 0175-22-2111（内線3351） FAX： 0175-23-7718
主催	むつ下北地域看護と介護の連携づくり委員会

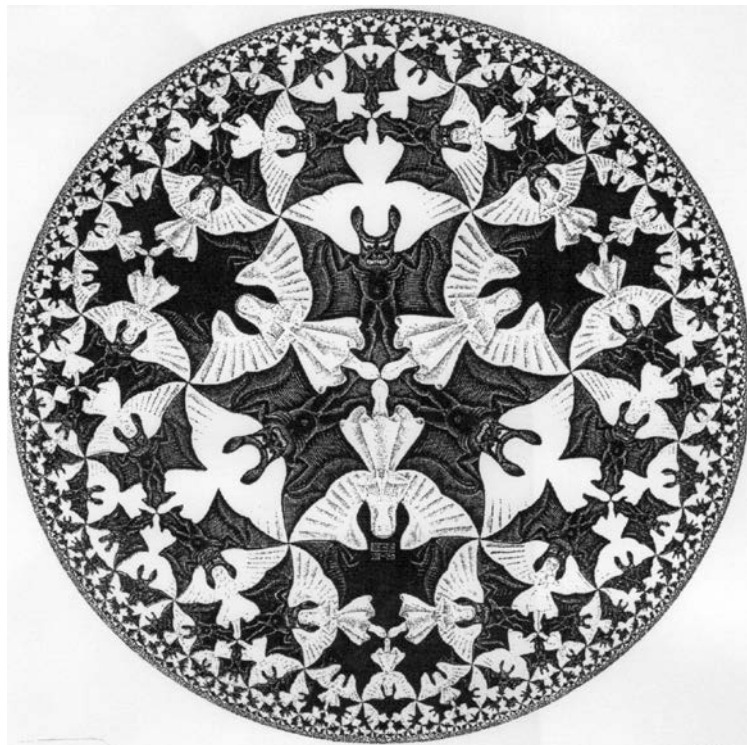


◆「公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団」の助成により開催されます。

「シームレス・セクトレス・エンドレスな

ケアを目指して」

～よりよいコミュニケーションツールを学ぶ～



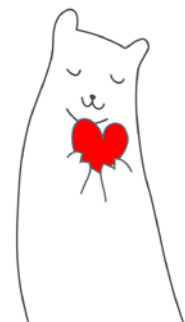
エッシャー『円の極限Ⅳ』 1960年, (木版画)

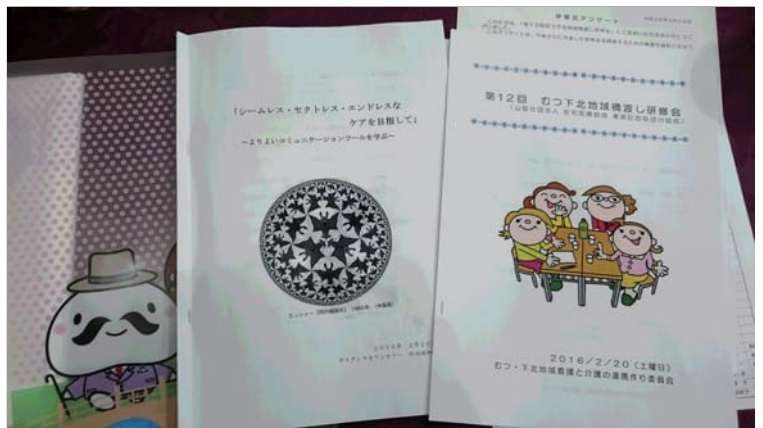
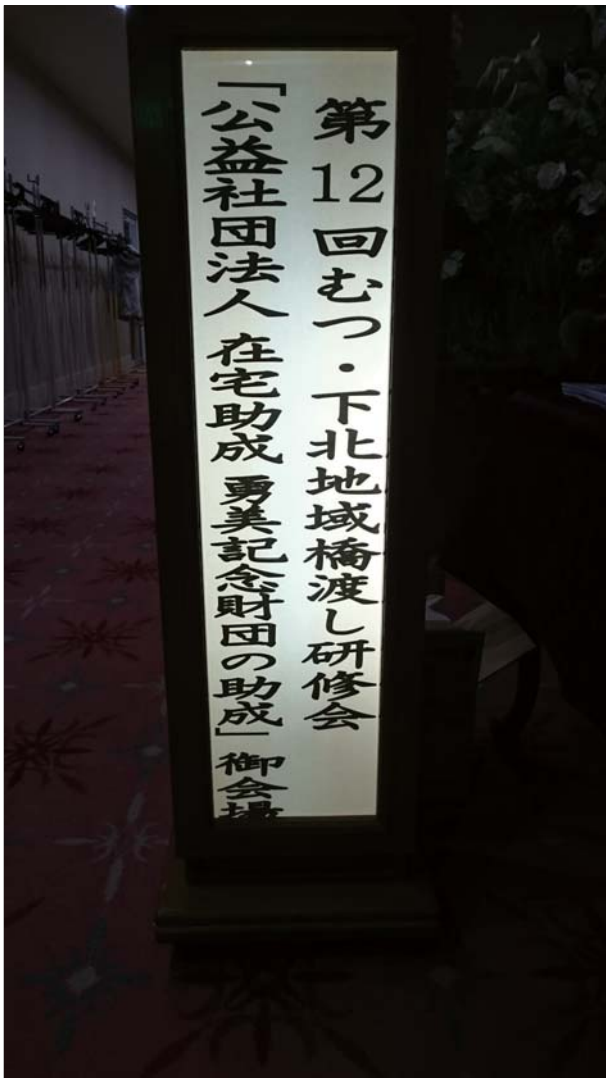
2016年 2月20日
ガイダンスカウンセラー 竹内由加子

「シームレス(連続性)・セクトレス(総合性)・エンドレス(永続性)」

継ぎ目のない、違和感のない、必要な時、タイムリーに、
そして効率的に、途切れることなく、終わりなく！

- 1、価値交流学習（私の大切にしていること）
- 2、わたしのかかわり方： 自分の人間関係の特徴に気づく
- 3、難しい相談者理解のすすめ方
- 4、無知のアプローチ（エクササイズ：二人の♡はぴったりんこ）
- 5、マズローの欲求階層
- 6、相談者の話の聴き方・ワークシート 「悩みを聴く力」
- 7、抵抗について（どうして離れていくの？）
- 8、困難や絶望から立ち上がる患者さんや家族のための具体的な手立て
- 9、今の自分によりそって 「フォーカシング」
- 10、援助者たち、燃えつきを 越えて！





第12回橋渡し研修会

「研修会アンケート結果」

平成28年2月

出席者 74人 アンケート提出者 62人 回収率 84%

1. 所属先

医療機関：25人 居宅介護支援事業所：8人 特別養護老人ホーム：7人
在宅介護支援センター：6人 訪問看護ステーション：5人
地域包括支援センター：4人 行政機関：3人 介護老人保健施設：2人
通所介護施設：1人 その他：1人

2. 職種

看護師：25人 介護支援専門員：15人 介護福祉士：6人 社会福祉士：4人
相談員：4人 保健師：4人 事務：1人 その他：3人

3. 大変参考になった・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59人

無回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3人

4. 研修会で良かったところ

- ・介護・看護の方とお互いに挨拶が出来て「顔の見える関わり」が出来た。
- ・困った患者、やっかいな患者など私達がそのように思う患者との接し方について参考になりました。 2
- ・基礎となる具体的なコミュニケーションの方法を学べた 6
- ・相談支援だけでなく、家庭での育児等に活かせる話が聞けた
- ・わかりやすいところ（テーマが身近である）（話内容）（例題があった） 20
- ・自己を分析する機会が持てた。（セルフチェック） 11
- ・人との関わりの中での再認識ができたところ 3
- ・自己の見つめ直しの機会となった。（自分の強みを活かしたい） 7
- ・今後、日々の業務に活かしやすい講義だった。 8
- ・自分が担当している方を思い浮かべ、具体的な対応や声かけを考えることが出来た。
- ・具体的に何をしたらよいか自分の課題が見つかった。
- ・会話から得る情報は重要である。「思考のワナは思い込み」という言葉で自分の雑念を捨て、相手の話を聞く大事さを痛感した。
- ・テストで自分の知らない内面がわかった。力不足の箇所がわかったので今後の課題としたい。 3
- ・価値観の尊重・悩みを聴く力などにおいて、介護施設の利用者や家族とのコミュニケーションに役立つ部分がたくさんあった。 2
- ・3時間の研修時間（短く感じた） 飽きることなく最後まで、参加できた。 2

- ・途中2回の休憩があり、飲み物もあり疲労感なく聴講できた。
- ・若い人とのギャップはどこから来るのか理解できた。
- ・レジメの字が小さすぎず、見やすかった。
- ・こんな自分でも良いのかといつも悩んでいたため、「未熟な自分でいいんだ」と講義の中にありホッと安心した。
- ・初めて多職種の研修会に参加でき、交流を深める機会となった。
- ・「相手を理解して受け止める」できそうでできないと思っていたが、先生の話聞き実践現場に活かしていきたい。看護局の目標「相手に寄り添う」に合うテーマで良かった。
- ・普段聞き慣れない単語などの意味を知り今後の仕事の参考としたい。
- ・講師の竹内先生の言葉使いのトーンや表現方法が参考となった。
- ・無知の姿勢など、かかわり方を学ぶことができたので、今後の参考にしたい。

研修会で悪かったところ（要望）

- ・ゆとり世代を悪い事のように言っていたので、気をつけてほしいと思った。
- ・内容が盛りだくさんなので、もう少し時間を長くして欲しかった。 3
- ・後半が早足でやっていたので時間がもう少し欲しかった。 3
- ・タイムマネジメント（もう少しゆったりと聴きたかった） 4
- ・限られた時間ではあるが、もっと例題や体験談を講師から聞きたかった。
- ・会場が少しせまく、暑かった。
- ・グループでまとまって話が出来たら良い

5. 「むつ下北地域橋渡し研修会」で取り上げてほしい課題やご意見

- ・患者と接することの多い中堅層のスタッフに聴いて欲しかった。
- ・施設の利用者さんとのコミュニケーションのあり方等、とても参考になった。
- ・再度、竹内先生の講演をお願いしたい。 2
- ・今後もこのような研修会を希望する。 2
- ・認知症の症例
- ・在宅療養の推進に向けて
- ・訪問看護についての理解、紹介
- ・多職種について理解しあう（それぞれの役割や活動を広報し、お互い役割を知る事）で、よりよい連携に繋がると思う。
- ・再度、竹内先生を講師に「ソリューションフォーカスアプローチ」について、事例やロールプレイのような研修ができれば良い。

6. 「むつ・下北地域看護と介護の連携作り委員会」への要望

- ・今後も継続してほしい。